



JASDAQ

平成 26 年 8 月 14 日

各 位

東京都千代田区神田錦町三丁目 17 番地 11

株式会社ジェクシー

(URL <http://www.gexeed.co.jp>)

代表者名 代表取締役会長兼社長 大島 剛生

(コード番号：3719)

問合せ先 経理 IR 部マネージャー 町田 英彦

電話番号：03-5259-7010

平成 26 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 26 年 2 月 14 日に公表いたしました平成 26 年 12 月期第 2 四半期累計期間（平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日）の業績予想との差異、及び平成 26 年 12 月期通期業績予想を最近の業績の動向を踏まえ、下記の通り修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年 12 月期第 2 四半期累計期間の業績との差異（平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A)	579	10	7	5	0 円 40 銭
今回実績値 (B)	371	△55	△57	△77	△6 円 20 銭
増減額 (B・A)	△208	△66	△64	△83	—
増減率 (%)	△35.9	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	569	△58	△64	△116	△12 円 11 銭

2. 第 2 四半期累計期間業績予想との差異理由

当第 2 四半期累計期間における我が国の経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動による影響が懸念されましたが、政府による経済政策や金融政策等の効果もあり、企業収益の回復による設備投資や雇用環境の改善による個人消費が回復の兆しをみせるなど、緩やかな回復基調を維持しております。しかしながら、近隣諸国との外交問題、新興国経済の減速懸念等、依然として先行きは不透明な状況が続いております。当社は、当第 2 四半期累計期間において、前事業年度に採算割れのあった大型プロジェクト案件の影響が 4 月度まで延長したことによりコンサルタントの有償稼働率の低下が発生したこと、見込み客の社内事情により見込み案件の消失などの理由により、売上高が減少し、営業損失、経常損失、四半期純損失を計上いたしました。

また、本日発表の「特別損失の計上に関するお知らせ」に記載の通り、無形固定資産（ソフトウェア）に対する減損損失を計上しました。

これらの結果、売上高 3 億 71 百万円（前回予想比 2 億 8 百万円減）、営業損失 55 百万円（前回予想比 66 百万円減）、経常損失 57 百万円（前回予想比 64 百万円減）、四半期純損失 77 百万円（前回予想比 83 百万円減）と、業績予想を下回ることとなりました。

3. 平成 26 年 12 月期通期業績予想の修正（平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	1,315	60	50	40	3 円 17 銭
今回発表予想（B）	863	△38	△42	△64	△5 円 12 銭
増減額（B・A）	△452	△98	△92	△104	—
増減率（%）	△34.4				—
（ご参考）前期実績 （平成 25 年 12 月期通期）	1,113	△104	△114	△173	△16 円 83 銭

4. 通期業績予想の修正理由

当第 2 四半期より経営体制の変更をし、即座に現状調査を行ったうえで現状把握をし、事業戦略の見直し、資本政策の立案を行いました。事業採算性が見込めない教育事業から撤退を決定し、新規事業領域として開拓を行ったオンラインマーケティング事業の事業モデルを変更するとともに、ワークスタイル変革支援を行うための製品群の開発に着手いたしました。また、コスト先行投資型のオペレーションモデルを徹底的に見直し、投資対効果に優れたオペレーションモデルへと変革をいたしました。新規案件の開拓を拡大するために、ビジネス開発本部を設置し、営業部員を増員するとともに、IT ベンダー、同業他社とのアライアンス強化を進めております。さらに、採算割れの恐れがあるプロジェクトの契約形態を請負契約から委託契約に変更するなどして、収益の悪化要因となるプロジェクトについてのリスク回避策も実行しております。このように第 3 四半期からの業績を回復させるための具体的な施策を講じております。

当第 2 四半期累計期間の業績に加え、当社を取り巻く事業環境の見直しと新しい経営体制による事業戦略の抜本的な見直しによりビジネス事業領域の見直しと拡大につき検討し、上記の通り平成 26 年 12 月期（通期）の業績予想を修正いたします。

売上高については、第 2 四半期までの実績及び経済環境の影響を踏まえた今後の売上見込みに基づき 8 億 63 百万円（前回予想比 4 億 52 百万円減）、営業損失については 38 百万円（前回予想比 98 百万円減）、経常損失は 42 百万円（前回予想比 92 百万円減）、当期純損失は 64 百万円（前回予想比 1 億 4 百万円減）を見込んでおります。なお、平成 26 年下期における経常利益は 14 百万円を見込んでおり、事業戦略の抜本的な見直しの効果として黒字化に回復することを予想しています。

なお、上記平成 26 年 12 月期通期業績予想に関しましては、本資料発表において当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上